

〔デザインノート〕

パブリックスペースに関するフィールドワーク報告

— 渋谷及び釜石におけるサイト・リノベーション —

杉浦久子・木下美紀・鈴木ますみ・山口莉歩・渡辺知代

1. はじめに

研究室では、「建築の立場から、人と環境と場所の関係」をテーマに、パブリックスペースで設計活動やフィールドワークを行ってきた。本稿では、2012～2013年度に杉浦研究室が中心となり行ったサイト・リノベーション*注1「ホンノバ・プロジェクト」の活動について報告する。

「ホンノバ・プロジェクト」とは、具体的に

■ホンノバ・プロジェクト (その1) 2012年

「MOYAI さんが行く」

(副都心線渋谷駅 12 番出口, SHIBUYA 109, 渋谷東急プラザ 1F エントランス)

■ホンノバ・プロジェクト (その2) 2013年

「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」

(渋谷ヒカリエ 8F 「8/」, 4F アーバンコア)

「ホンノバ・プロジェクト in みんなの家・かだって」

(釜石 みんなの家・かだって)

■ホンノバ・プロジェクト (その3) 2013年

「ホンノバ・プロジェクト

in 三茶子育てファミリーフェスタ」

(昭和女子大学 旧体育館)

「ホンノバ・プロジェクト

in インターネット de かだって」

(釜石 インターネット de かだって)

■ホンノバ・プロジェクト (その4) 2013-2014年

「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石」

(昭和女子大学 80 年館学生ホール)

「ホンノバ・プロジェクト

in 恵比寿スタジオ 「ホンノバ・カタリバ」

(伊東建築塾恵比寿スタジオ)

以上4つの活動に展開し、現在も続いており、今回「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—渋谷及び釜石におけるサイト・リノベーション—」としてまとめ、報告する。(以上のプロジェクトは昭和女子大学環境デザイン学科「DP 総合演習」の活動の一環でもある。)

2. サイト・リノベーションの定義と経緯

現代は、スクラップ・アンド・ビルドの時代から、既にあるストックを見直していく時代へと移行しつつある。当たり前のものでありそこに存在している建築のみならず様々な既存空間の質を再発見し、顕在化させ、新たな場をつくりだすことを建築的命題と考え、2000年頃から実際のまちなちに出て活動を行ってきた。2004年以降は「場所に建築を建てるという行為のみならず、積極的な意味において建てないことも含め、既存空間の意味やポテンシャルを再発見し、人を含む空間全体を関係づける環境をつくること」を「サイト・リノベーション」と定義し、これらの活動を行ってきた。その手法として環境、場所のリーディングを行い、既存空間の中に活性化の可能性のある場所を見つけ、まちなち実際の空間を設置し、「場」に「出来事」や「状況」を起こす。場所の使用許可の問題もあり、多くは実験として仮設で一時的なものであったが、定着化してきたケースもあり、このような手法によるプロジェクトが、地域のみんなの場所として交流の機能を担い、まちづくりとしてもひとつの意味あるものになると考える。大きな開発的行為により公共の空間を新たにつくるという方法によらなくても、地域に入り、日常のささやかな場所を新たに掘り起こすような方法により、まちなちを活性化する空間をつくるのが可能になると考えている。

3. 「ホンノバ・プロジェクト」

3-1. 「ホンノバ・プロジェクト」とは

サイト・リノベーション活動の一環として、2011年からは渋谷駅周辺の隙間的公共空間において、多くの人々が往来する中に新しいコミュニケーションを起こすことを目的とし、本の物々交換のための空間設計を行ってきた。本の物々交換の空間を「本の間＝ホンノバ」とし、これら一連の活動を「ホンノバ・プロジェクト」とする。

3-2. 「ホンノバ・プロジェクト」の経緯

「ホンノバ・プロジェクト」とは、「shibuya 1000」展 2011年「ブックつり～」において、本という媒体を通し



写真1 「MOYAIさん現る」 SHIBUYA 109 前イベントスペース

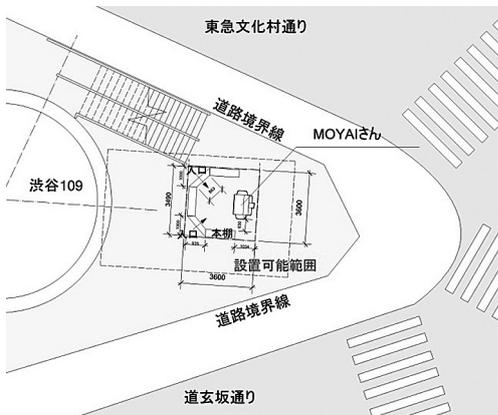


図1 平面図 SHIBUYA 109 前イベントスペース

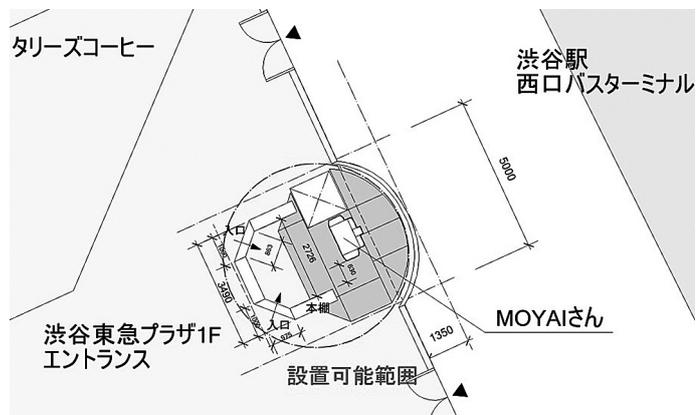


図2 平面図 渋谷東急プラザ1F エントランス



写真2 渋谷東急プラザ ショーウィンドウより



写真3, 4 「MOYAIさんが行く」古本物々交換の様子

て、人と人とを繋げるコミュニケーション空間である本の物々交換の場をつくったことに端を発している。東日本大震災を機に2012年「MOYAIさんが行く」プロジェクトからは、本を通して渋谷と東北を繋ぐプロジェクトへと発展した。2013年には、学内でも「三茶子育てファミリーフェスタ（=子育てフェスタ）」において本の交換をする「ホンノバ」を制作した。

交換会で集まった本は、2013年3月、5月、伊東豊雄氏が主宰する伊東建築塾を通して「みんなの家・かだって」へ送った。また現地にて本棚を制作し「ホンノバ」を設けた。更に「子育てフェスタ」にて集まった子どもの本は同年9月に「インターネット de かだって」へ送り届けた。ホンノバ・プロジェクトは現在も発展し続けている。

4. 「ホンノバ・プロジェクト」(その1) 「MOYAIさんが行く」

4-1. 「MOYAIさんが行く」の目的

本プロジェクトは、2010年から3度目の参加となる「shibuya 1000」2012展のプロジェクトである。

渋谷の魅力は、比較的狭いエリアにアップダウンの地形があり、その地形のひだごとにエリアの雰囲気異なり、多様な空気感が共存していることである。こうした渋谷の多様性を活かして、「MOYAIさんが行く」プロジェクトは3ステップをもうけ、渋谷の魅力を表現した。

このプロジェクトは、震災2011.3.11以後ということもあり、モヤイ像の脇にあるメッセージが目に留まったことから始まった。『新島には古くから「モヤイ」と呼ぶ美しい習慣があった。それは島民が力を合わせる時にのみ使われた。いわば共同の意識から生まれた素朴な人々のやさしい心根を表すものであった。(中略)ここに集う人々よ、ものいわぬモヤイ像は、あなた方に何を語りかけるであろうか(後略)』。この中の「最合う(力を合わせる)」という古き良き言葉に今日的な意味があると考え、渋谷から東北にこのメッセージを発信したいと考えた。

4-2. 「MOYAIさんが行く」の方法

Step.1「MOYAIさんが行く」はshibuya 1000の展示企画の一環として、2012年3月3日～3月11日まで副都心線渋谷駅12番出口において、A1パネル114枚の写真展示を行った。写真は渋谷の中でも、古くからの地域である道玄坂・神山町・東急本店通り・松濤エリアの調査を行った上で、私たちの視点から54ヶ所の場所を選び、その場所で「最合う」というメッセージを体現する「MOYAIさん」というキャラクターと、この場所に関係した88名の方々が交流しているところを撮影し、写真と本にした。バラバ

ラな特異点を「MOYAIさん」が繋いで行き、点から線、線から面へと広がりながら日常を一瞬煌めかせ、新たな渋谷の「幻想空間」を出現させた。

Step.2「MOYAIさん現る」として、2012年3月5日～3月7日まで、渋谷という街のランドマークである渋谷「109」前イベントスペース(図1)に、2.7mの巨大化した「MOYAIさん」の彫像を含む空間を設置し、本や写真というフィクションの中に存在していた「MOYAIさん」を実際の街に出現させた。渋谷の象徴的な交差点を流れる人に対して、メッセージ付きの本を物々交換するイベントを開催した。(写真1)

Step.3「MOYAIさん東北へ」では、2012年3月10日～3月11日まで、渋谷のもうひとつの象徴的な場である渋谷東急プラザ1Fエントランス(図2)に、Step.2で集積した約400冊の本をMOYAIさんと共に展示し、本により交流を促す2度目のイベントを仕掛けた。(写真2,3,4,図3)

4-3. 「MOYAIさんが行く」の結果

MOYAIさんは、「最合う」という物語を紡ぐ主人公であり、人の気持ちを繋いで行く役割を担いつつ、その存在は空間と絡んで人々に伝播していった。

本や写真という仮想的媒体を通じて、渋谷の現実世界に関係性を形成出来るかが今回の実験のテーマであった。仮想世界の中の「MOYAIさん」が、巨大サイズのリアルな像となり実際に街に立ち現れることで、「最合う」というメッセージが空間にシンボライズされ、本によるコミュニティ空間が実現出来た。さらに、「MOYAIさんが行く」プロジェクトにおいて、渋谷の1つの集積体である本が、東北に届くことで、渋谷という街で「人と人」の間で行われていた交流を、東北の人達へと繋ぎ、次は渋谷と東北という「街と街」が交流する結果となった。(写真5,6,7)

5. 「ホンノバ・プロジェクト」(その2)

「MOYAIさんが行く Part 2 「MOYAI book」」

5-1. 「MOYAIさんが行く Part 2 「MOYAI book」」の目的

本プロジェクトは、「MOYAIさんが行く」の続編である。2010年から4度目の参加となる、「shibuya 1000」2013展で行ったプロジェクトである。

2013年のshibuya 1000は、渋谷の新たな玄関口として2012年4月にオープンした渋谷ヒカリエを展示空間として利用した。渋谷ヒカリエ8階のCreative Space「8/」と、ヒカリエ内を地中から地上へと貫かれた大きな縦動線のパブリックスペース(アーバンコア)の4階部分の2ヶ所にて展示を行った。「8/」はART & CULTUREフロアの展示スペースであり、クリエイティブ活動を発信する複合

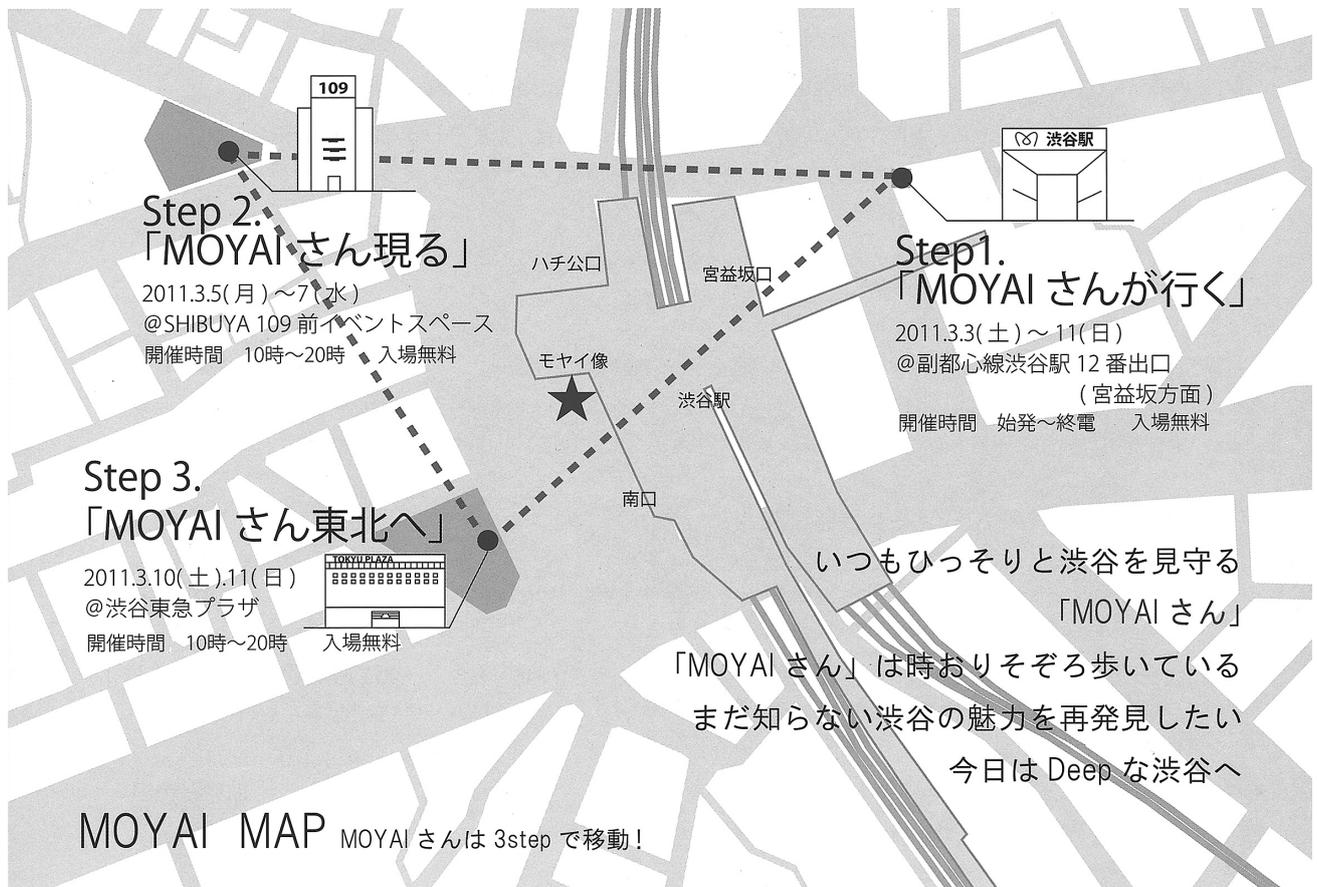


図3 「MOYAI さんが行く」地図



写真 5, 6, 7 「MOYAI さん」と渋谷の人々との写真

スペースである。(写真8)アーバンコアは渋谷ヒカリエという商業施設の一部でありながらパブリックスペースの空間性を有している特異な隙間の公共空間である。(写真9, 10)そして、日々多くの人が行き交う場所となっている。またアーバンコアは、商業エリアから一步外に出た半屋外空間となっている。ガラス張りの展望スペースからは、当時新旧が入れ替わろうとしていた東急デパート東横店とそれに付属した東横線のホーム・銀座線のホームを望むことが出来、そこには新旧の渋谷が対峙していた。

ヒカリエという渋谷の新しいランドマークにおいて、本の物々交換の空間が、本による新しいコミュニケーションの場をつくり、東北へ繋がることを企画した。さらに、再開発によって消え行く渋谷の街と新しい渋谷の街の景色を記録し、現代の新しいコミュニケーションツールである「SNS」を利用し、情報発信も行った。

5-2. 「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」の方法

Step 1. 消え行く渋谷の街と新しい渋谷の街の記録

近年、渋谷の再開発は進み、以前の渋谷の風景は消え、新しい風景へ変化し続けている。アーバンコアから望む渋谷の風景にも、東横線のホーム、東急デパート東横店など、移り変わろうとしている渋谷の風景が広がっていた。そこで、「MOYAI さん」と共にその風景を写真に収めて行くことで、変わり行く渋谷の風景を記録に残せると考えた。

Step 2. SNS によるメッセージの発信

現代の新たなコミュニケーションツールである Facebook と Twitter は多くの人と容易に交流することが可能である。不特定多数の人々が訪れ、サブカルチャーが発信される渋谷だからこそ「SNS」での呼びかけに多くの人々を集められると考え、「MOYAI さん」を主人公とし、消えつつある渋谷の街の風景の写真を Facebook と Twitter から発信した。

Step 3. 物々交換会によるコミュニケーション

活動が始まった段階で前年度の「MOYAI さんが行く」から引き続き、本の物々交換によって集めた本を東北へ送り届けるための活動を行った。本を通じて、東京と東北において間接的コミュニケーションを起こすために、本の物々交換会では2冊以上の本を持ってきてもらい、1冊は好きな本と交換、もう1冊は東北へ送るための本というルールを策定した。どの本にも本の紹介文を書いてもらい、それをしおりとして挟むことで人から人へ本を介してのコミュニケーションを図った。東北へ一方的に本を送るだけでなく、本に対するメッセージを付けることで、東京の人と東北の人が同じ気持ちを共有し、間接的に東京と東北が繋がることを期待した。これらから、さらにホンノバ・プロジ

ェクトが広がっていった。

5-3. 「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」内容

本プロジェクトでは東北に本を送ることと変わり行く渋谷の風景の写真を展示する目的があった。そこで渋谷で本の物々交換を行え、かつ写真展示を行える「MOYAI さんの家」を制作することを考えた。「集まる」「とどまる」という機能と展示場所であるアーバンコアの人の流れを読み込んで空間設計を行った。

渋谷の地形は渋谷駅に向かって谷になっており、そこへ様々な人が集まる。谷の形には人が集まり、流れが起きる要素があると考え、谷をイメージした形にした。さらに、谷の形をふたつに分割し、アーバンコアでの人の流れに合わせて渦のような動きをつけることで「MOYAI さんの家」の中に人を誘導し、人の流れる空間を設計した。(図4)

また、本を置く場所と写真の展示が出来る場所を考え、ブロックを地形のように重ねた部分に本を置き、かつ写真を展示することも想定し、1つのブロックの寸法をA4サイズ(210mm×297mm)とした。さらに、このブロックは物を置くだけでなく椅子として使うことが出来、読書スペースや休憩スペースなど「とどまる」ことの出来る空間をつくった。(写真11)

これらの要素を踏まえ、初日の「8/」スペースからアーバンコアへ一晩で移動させることやアーバンコアの強風に耐えうる形、施工方法などスタディ模型をもとに検討を行った結果、ブロックの素材は軽く、加工のしやすいスタイロフォームを使用した。接着には、耐久性の面などを考慮して両面テープと接着剤を使用した。(写真12, 13)

5-4. 「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」の結果

「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」では、移り変わる渋谷駅を眺める人、本の物々交換を行う人など様々な目的で訪れた人が佇む空間となった。また、「MOYAI さん」が、消えつつある渋谷の街の風景を紹介しながら渋谷ヒカリエでの物々交換会を呼びかけた結果、物々交換会では「SNS」によって来場した人も多く見られ、ネット上の仮想空間から物々交換という直接的な交流が生まれ、生き活きとした皆の場となった。

このプロジェクトにより、本の物々交換会によって集まった本は、「shibuya 1000」展に参加されていた伊東豊雄氏を通じて、@リアス NPO サポートセンター(NPO@リアス)、伊東豊雄建築設計事務所の方々の御協力のもと「みんなの家・かだつて」へ送り届け、その本を置くために本棚の制作を関係者皆で行った。(写真14, 15)



写真8 渋谷ヒカリエ 8F 「8/」展示



写真9 渋谷ヒカリエ 4F アーバンコア展示風景



写真10 渋谷ヒカリエ 4F アーバンコア展示風景

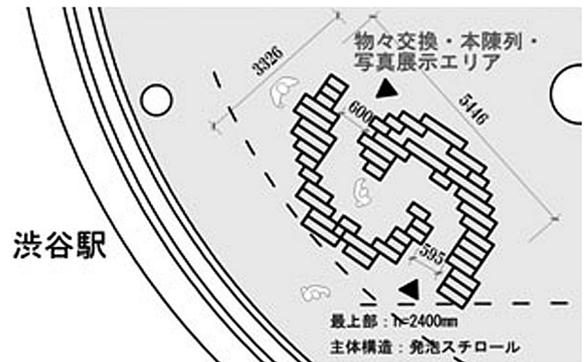


図4 渋谷ヒカリエ 4F アーバンコア展示 平面図

6. 「ホンノバ・プロジェクト」(その3)

「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリーフェスタ」

6-1. 「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリーフェスタ」の概要と目的

「子育てフェスタ」とは、地域で活躍する団体と大学が、世田谷の様々な子育て支援活動を紹介するものであり、小学校低学年までのご家族が、みんなで楽しめるイベントである。主催の昭和女子大学とNPO 昭和に加え、後援の世田谷区と合同で毎年6月に開催しており、2013年で8回目を迎える。

本プロジェクトは、「三茶子育てファミリーフェスタ」における、環境デザイン学科ブース内で行った空間インスタレーションである。「子育てフェスタ」においてすでにおもちゃなどの「かえっこパズル」などの企画が大変好評であったことなどから、本のバージョンとして、子どもの本の物々交換をする空間をつくることを企画とした。昭和女子大学の旧体育館内に各ブースがつくられたが、佇めることを考慮し、旧体育館の隅のスペースに設置した。子どもの成長や学びにおいて重要な本を、楽しく読める場所にするために、子どもと親が共に楽しみ、本の物々交換が出来る空間をつくりたいと考え、空間には子どもの目線と親の目線を取り入れたいと考えた。

6-2. 「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリーフェスタ」の方法・内容

子どもの本の物々交換の空間をつくるにあたり「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」の空間を「子育てフェスタ」の空間にサイズやデザインを再構成した。材料のスタイロフォームと工法は同様とし、「とどまり楽しむ」と「子どもの目線と大人の目線」の2点を重視して空間を再構成した。お椀形の空間内部はとどまれる空間とした。さらに、外部にアーチとスペースを設けることで、周りを回遊出来る空間にした。お椀部分に設けた開口部は、中を子どもの空間にするため、高さを約90cmにし、子どもの身体スケールに合わせた。同時に、中の子どもの親が見守れるように、お椀の高さを部分的に150cmにし、包まれながらも外部に開かれる空間とした。さらに、周囲に本を設置出来るようにするため、周りに裾を拡充した。

6-3. 「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリーフェスタ」の結果

空間に低い子どもの視線と、子どもを見守る高い親の視線を内在させることで、子どもと親が共に楽しみ、本の

物々交換が出来る空間が実現した。(写真16, 17, 18)

この本の物々交換会によって集まった本は、2013年9月「インターネット de かだって」へ送り届けた。

7. 「ホンノバ・プロジェクト」(その4)

「ホンノバ・プロジェクト

in 秋桜祭 → 釜石/in 恵比寿スタジオ」

7-1. 「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石/in 恵比寿スタジオ」の目的

東日本大震災から3年が経ち、破壊された建物等の瓦礫は撤去、土地は綺麗に整地され、被災した建物の大半が姿を消している。また、「桑畑書店」が建つ只越町商店街(図5)でも津波の被害が大きく、更地が多く見られた。その上、現在商店街を中心に新築工事が進行しているため、津波の痕跡が釜石の街全体から失われつつある。そのため、外来者が震災の被害を想起するのは難しい状況にある。その状況下で、震災後の状態のまま建つ「桑畑書店」は津波の被害を伝える数少ない建物である。(写真19)そこでこの「桑畑書店」の被災した建物そのものを使ったプロジェクトを行うことを考えた。

震災の遺構もしだいに消え行く中、津波の跡を残す建物自体に震災の様子を伝える力があると思い、震災が風化しつつある東京から発信することを目的とした。

7-2. 「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石/in 恵比寿スタジオ」の方法

被災した「桑畑書店」の建物のデータが残っていないため、曲がった柱も含めてすべて一から現地にて測量し2D、3Dの図面に起こした。(写真20, 21, 図6, 図7)被災した書店を測量した図面に基づきそのまま1/6模型に復元した。1/6の復元模型、写真を2013年11月昭和女子大学学園祭(秋桜祭)にて展示した。(写真22, 23, 24, 図8)2014年2月「NPO これからの建築を考える」伊東建築塾恵比寿スタジオにて再展示、「ホンノバ・カタリバフォーラム」を開催し、今までの活動の経緯、釜石での「ホンノバ」実現に向けた提案を行った。

7-3. 「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石/in 恵比寿スタジオ」の内容

「ホンノバ・プロジェクト in みんなの家・かだって」の参加後、どのようにしたら現地で感じたことを東京で発信出来るのか何度も研究室でミーティングを行った。津波を受けてもなお、建ち続ける躯体の形から伝わってくる力を表現するために様々な方法が案として出されたが、最終的に被災したそのままの状況を再現することに力があ



写真 11 渋谷ヒカリエ 4F アーバンコア展示風景



写真 12 渋谷ヒカリエ 8F 「8/」搬入風景

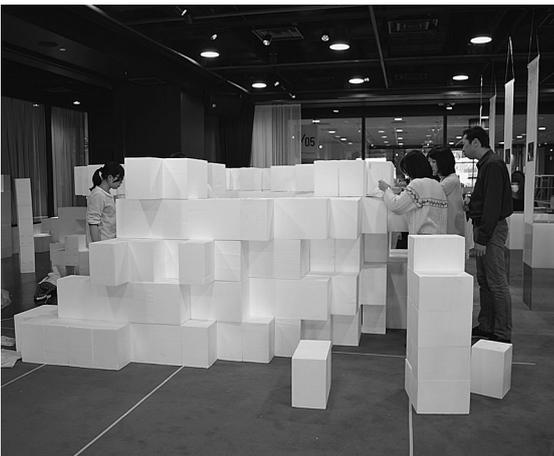


写真 13 渋谷ヒカリエ 8F 「8/」施工風景



写真 14 渋谷の本が「みんなの家・かだって」へ



写真 15 本棚制作風景



写真 16 子育てフェスタ
施工風景



写真 17 子育てフェスタ
展示風景

憶に残ると考え、再現展の形式をとった。

■基本躯体モデルの設計プロセス

来場者の方に、被災した「桑畑書店」の空間をリアルに体感してほしいと考え、展示寸法は出来る限り1/1に近いサイズを検討した。当初、躯体モデル内部に入ることを考えていたため、1/2、1/3のサイズを検討していたが、展示スペースに入らないことや、寸法に合う部材が確保出来ない等の理由から実現には至らなかった。その後、模型作成の方法とサイズを検討するため、1/10模型を作成した。この作業で、各部材の形や大きさ・本数・組み方を検討し、仕入れる部材の量や方法を決定、最終展示サイズを1/6模型とした。同時に、模型と合わせながら現地調査で実測してきたデータをもとに図面作製を行った。1/6サイズで制作当初は、ダンボール、木材で検討したが、ダンボールの試作では荷重に耐えられず、また、木材のみでつくられたものは、自重が重過ぎる等、最終展示模型における材料は「木材」と「スチレンボード」を併用し、接合部は、「ほぞ」の形式で行った。

■壊れた部分の再現プロセス

現地調査において、破壊部位に関する実測は、X軸、Y軸、Z軸をとり、スケッチと共に測量し書き起こした。この値をもとに3D図面を立ち上げ、部材1本1本の図面を作成した。部材は、柔らかい加工性と角のエッジの表現を考慮し、発泡塩ビ板を使用した。

7-4. 「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石/in 恵比寿スタジオ」の結果

■学園祭（秋桜祭）展示 2013年11月

展示空間（80年館1階学生ホールB）全体で海と山で形成されている釜石の街を表現するために、1/6模型と共に、周辺の地形を高さに合わせて様々な長さにカットした四角柱のポールを等高線に合わせて配置して山と見立てた。山と建物の位置、そして海的位置関係を模型で表し釜石の縮図を展示空間に表現した。更に、この高さを表現したポールの各面には、現地調査において撮影した釜石の写真を貼り、釜石の現状についての展示とした。さらに、「アーキアリング・デザイン展2013」にて展示を行った。（写真25、26）

■恵比寿スタジオ展示 2014年2月

学園祭の展示を「NPO これからの建築を考える」伊東建築塾恵比寿スタジオにて再展示、及びフォーラムを行うこととなった。フォーラム当日は、会場の関係もあり、恵比寿スタジオの手前側の入口スペースにおいて1/6模型の展示を行った。（写真27、28、29）フォーラム後に再度解体し、恵比寿スタジオ内部に展示した。模型とパネル展示

に加え、写真家の菊池和子氏が震災後から撮り貯めていた釜石の写真と、「NPO@リアス」の方からご提供いただいた被災地のビデオと共に展示することで、東京から釜石の現状を発信する空間となった。（写真30、31、図9）

8. 今後の展望

■桑畑書店におけるサイト・リノベーション

桑畑書店は現在仮設商店街にて営業を行っているが、元の場合、建物にて営業再開を望んでいる。すでに、震災から3年経っているがなかなか復興の目処は立たないのが現状であり、今後1~2年は現状のままであると伺っている。「桑畑書店」の店主桑畑氏は、新たに出店の決まった「イオン」との共存の道を探りつつも、様々な困難と戦いながら再建を覚悟されている。

東北各地において「震災遺構」についての賛否が議論されているが、ここ釜石においても、最近またひとつ「鶴田地区防災センター」の施設が消えたばかりであり、記憶を残すものは本当に次第になくなっていく。

私たちは、恵比寿スタジオのフォーラムでの話し合いの結果から、津波の痕跡が刻まれた架構をそのまま生かし使う実験的プロジェクトとして、サイト・リノベーション「ホンノバ」の空間の実現を目指している。このプロジェクトは桑畑さんご自身やその支援者、現地の方々などの貴重なお話からもこの場に、地域内外の人が訪れ、震災の記憶の発信と交流の場として機能することを願っている。

被災した場所を使うことで、震災の記憶が風化することを防ぐことになればと考えている。

9. ホンノバ・プロジェクト詳細（図10）

■2012/「MOYAI さんが行く」詳細

開催期間: 2012年3月3日~11日

参照: shibuya 1000

<http://www.shibuya1000.jp/>

http://www.shibuya1000.jp/_004/program/program01.html

掲載: 「2012年度大会（東海）建築デザイン発表梗概集」

（サイト・リノベーション その8、その9）

2013年7月20日発行 p.2-5

「昭和女子大学 by AERA」

2012年6月30日発行 p.44-46

参加メンバー: 杉浦久子、後藤友香、長久保麗子、山田安紀、

木下美紀、鈴木ますみ、仲愛美、中村成美、

湯浅晴奈、鈴木さやか、吉田織音、沓澤麻美、

宮田直子、遊佐加奈子、野村郁美、小岩井彩未、

杉浦友哉、杉浦冬悟



写真 18 子育てフェスタ 展示風景



図 5 金沢市地図



写真 19 桑畑書店 (金沢市只越町)



写真 20 桑畑書店測量 2013. 8. 27-8. 29

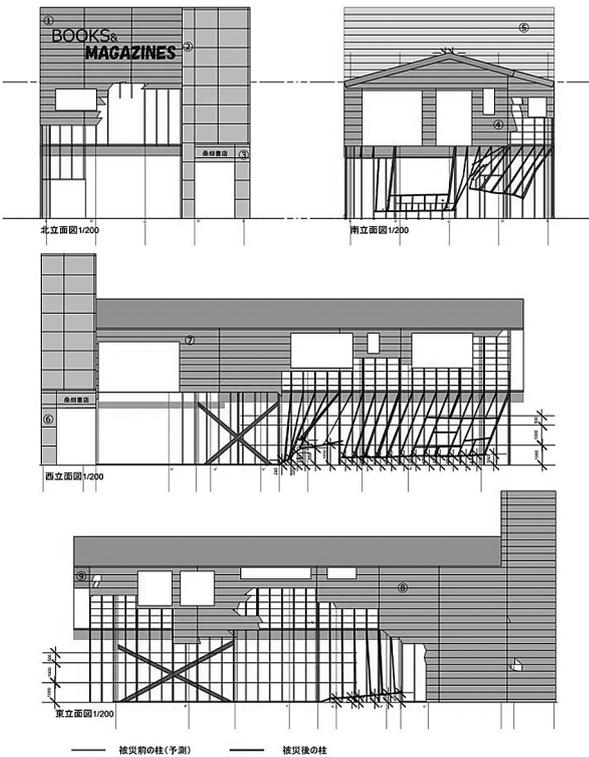


図 6 立面図



写真 21 桑畑書店 1階

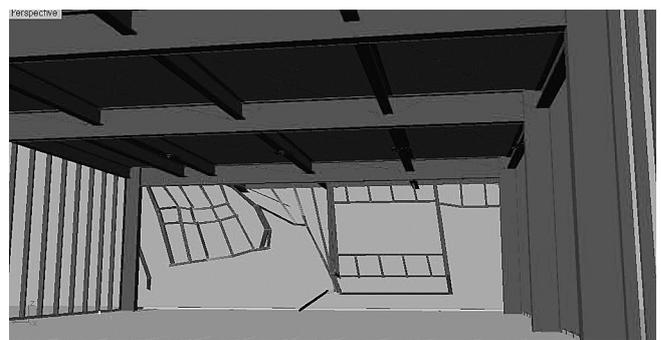


図 7 3D 図面 (ライノセラ)



写真 22 昭和女子大学 学園祭展示 2013. 11. 9-11. 10



写真 23 学園祭 施工風景



写真 24 学園祭に訪問された伊東豊雄氏

松原手帳

津波で内部を流されながら、裸の鉄骨は壊れた街にすくと立って（タミ）をつるし、通行人に「交換」をた。昭和女子大（東京・世田谷区）の環境デザイン学科教授、杉浦久子さんは、2階建ての書店跡を初めて見た時、「まるで、負傷したつも、戦場から帰還した勇士のよう」と心震えた◆岩手県釜石市の被災書店が先日、同学園祭で縮尺6分の1でよみがえった。杉浦研究室の学生たちが今夏、波の形に曲がった小さな柱やびくともしなかった鉄骨主柱を測量し、再現した◆同研究室は公共空間に「本の物々交換の場（『ホンノバ』と呼ぶ）を設けるユニークな活動が続いている。渋谷駅の旧跨線橋の天井から本呼びかけたこともある◆本の提供のため被災地を訪れて出会った建物。裸とした姿をホンノバの象徴として展示したかったと杉浦さん。3代目書店主の桑畑眞一さん（60）は、30数店が並ぶ仮店舗で営業している。元従業員を全員再雇用し、「経営は苦しいけど、何とかやっています」と笑う◆「あの『勇士』もとで、ぜひホンノバを」と願う杉浦さん。「地盤のかさ上げが終れば再建したい」という桑畑さん。本が結ぶ一つの夢。その実現への足取りの中に、復興の確かな証しが刻まれていくのだろうか。

図 8 学園祭展示後の新聞記事
東武よみうり新聞 2013. 11. 18

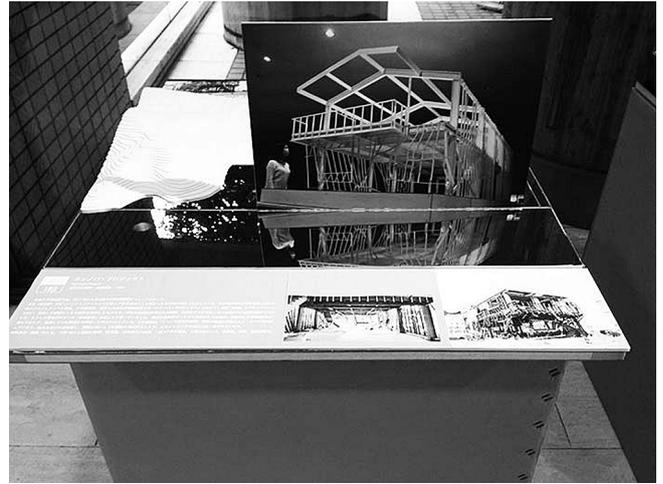


写真 25, 26 アーキニアリング・デザイン展 展示風景



写真 27 伊東建築塾 恵比寿スタジオ 展示風景



写真 28 伊東建築塾 恵比寿スタジオ 施工風景



写真 30, 31 ホンノバ・カタリバフォーラム
2014. 2. 22
伊東建築塾 恵比寿スタジオ

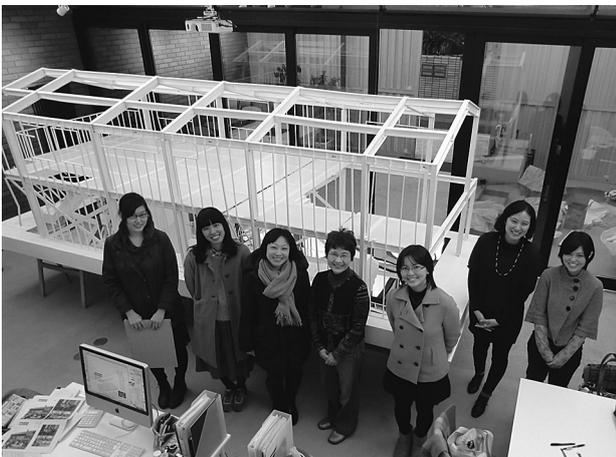


写真 29 写真展示協力者の菊池さんと撮影



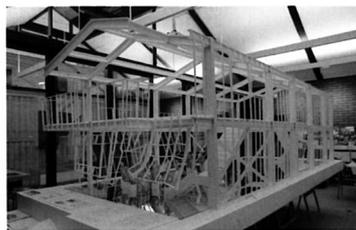
ホンノバ・プロジェクト in 伊東建築塾恵比寿スタジオ 「ホンノバ・カタリバ」

◎伊東建築塾恵比寿スタジオ／東京
2014.2.23～2.28

伊東建築塾恵比寿スタジオにて、昭和女子大学杉浦久子研究室の活動を紹介する展覧会、「ホンノバ・カタリバ」が開催された。宮城県釜石市に、東日本大震災時に発生した津波によって被災し、構造体のみが残った1軒の本屋がある。震災から3年、記憶が失われていく中で震災遺構の持つ意味を問うため、杉浦研究室では現地で測量したデータをもとに模型を制作。今回の展覧会で展示された。その他にも、これまでの渋谷での取り組みを紹介するパネルや、震災発生直後からの被災地の写真を展示。2月22日には、釜石からの佐々木聖氏、またゲストコメンテーターとして伊東豊雄氏を迎えてのフォーラムも行われた。



釜石にて桑畑書店の実測を行う学生。



津波の痕跡を残した構造体のみが残る桑畑書店の模型。



会場風景。模型の他、被災地の写真なども展示された。

渋谷と釜石を繋ぐ「ホンノバ・プロジェクト」

2011年に渋谷駅「跨線橋」、2012年は「109前」や「東急プラザ」、2013年には「ヒカリエ」等と、渋谷駅周辺の隙間的公共空間で新しいコミュニケーションを起こすことを目的として始めた「本の物々交換のための空間づくり」は、震災を機に2013年には「ホンノバ・プロジェクト」として伊東豊雄氏設計の釜石「みんなの家」（本誌1209）へ、渋谷と釜石を繋ぐプロジェクトとして発展した。そして、この「桑畑書店」に出会った。津波の痕跡を残しつつ空地だらけの商店街に凍として建つ。そのパワーに圧倒された私たちはこの

建物をなぞりたいと考え現地で測量し1/6模型にした。そして偶然、書店!「ここで何かできないか」と新たな「ホンノバ・プロジェクト」が始動。今後の展開として、さまざまな人がこの場所について語る場をつくりその内容を本にまとめるなども考えている。仮設で奮闘される桑畑氏やNPO@リアス、伊東氏、写真家の菊池和子氏のご協力もあり、今回恵比寿スタジオにて「ホンノバ・カタリバ」フォーラム、展覧会を開催できたことを嬉しく思う。被災地を除いては震災の記憶が消え行く今日、今後は現場からも発信していきたい。(杉浦久子／昭和女子大学教授)

図9 新建築 2014年4月号 EXHIBITION

写真	プロジェクト名	日時	場所	説明
	「ブックつり〜」	2011. 2	渋谷駅 旧跨線橋	現在はなくなった渋谷駅の跨線橋内部にて初めて本の物々交換会を行った。人との関わりが希薄と思われがちな渋谷で本によるコミュニケーションの可能性を知る契機となりこれを「ホンノバ」とした。
	「MOYAI さんが行く」	2012. 3	SHIBUYA 109 前 イベントスペース 渋谷東急プラザ 1F エントランス	渋谷のモヤイ像の「最合う（力を合わせる）」というメッセージに今日的な深い意味を感じ、渋谷からさらに広く発信したいと考えた。 2.7m の巨大化した「MOYAI さん」をシンボルとして設置し、東北へ届けるために古本の交換会（収集）のイベントを行った。不特定多数の人々が集まる渋谷にコミュニケーションを起し、人々の関係を生み出した。
	「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」	2013. 3	渋谷ヒカリエ 8/ アーバンコア	MOYAI さんの部屋を設置し、皆を招く。新旧のコミュニケーションである「SNS」と「物々交換」、新旧の渋谷の景色、MOYAI さんはこれらを繋ぐ存在である。本の物々交換の場は MOYAI さんというフィルターを通して見た渋谷の記憶と記録の集積の場であり、この交錯する谷状の空間は、人々の出会いを生んだ。
	「ホンノバ・プロジェクト in みんなの家・かだって」	2013. 3 ） 2013. 5	岩手県釜石市	「ホンノバ」での本の物々交換会によって、約 400 冊の本が集まった。2013 年 3 月、集まった本の中から 100 冊を伊東豊雄氏が主宰する伊東建築塾を通して「みんなの家・かだって」に送った。また同年 5 月現地で伊東豊雄建築設計事務所、NPO @リアスのスタッフの皆様と総勢 10 人で本棚を制作し新たに 200 冊を届けた。
	「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリー フェスタ」	2013. 6	昭和女子大学 旧体育館	小学校低学年までのご家族が、みんなで楽しめるイベントである。地域で活躍する団体と共に、世田谷の様々な子育て支援活動を紹介している。子どもの本の物々交換を目的として、「MOYAI book」で行った空間を旧体育館に、子どもの身体に合わせてアレンジした。
	「ホンノバ・プロジェクト in インターネット de か だって」	2013. 9	岩手県釜石市	「三茶子育てファミリーフェスタ」にて集まった子どもの本は 9 月に「インターネット de かだって」へ送り届けた。
	「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石」	2013. 11	昭和女子大学内 学生ホール	被災した書店をそのまま測量した図面に基づき 1/6 模型に復元した。建物のデータが残っていないため、曲がった柱も含めてすべて一から測量し図面に起こした。1/6 の復元模型、写真を学園祭にて展示した。
	「ホンノバ・プロジェクト in 恵比寿スタジオ」	2014. 2	伊東建築塾 恵比寿スタジオ	1/6 の復元模型、写真を再展示。今までの活動の経緯、釜石での「ホンノバ」実現に向けた提案をホンノバ・カタリパフォーラムにて行った。

図 10 ホンノバ・プロジェクトのプロセス

協力: shibuya 1000 実行委員会, 鈴木一成, 渋谷百軒店商店街,
道玄坂商店街振興組合, 神山商店街, 東急本店通り商店街,
松濤エリアのみなさま

■2013/「MOYAI さんが行く Part 2 「MOYAI book」」詳細

開催期間: 2013年3月10日~29日

参照: shibuya 1000

<http://www.shibuya1000.jp/>

http://www.shibuya1000.jp/_005/contents/contents_h.html

掲載: 「2013年度大会(北海道)建築デザイン発表梗概集」

(サイト・リノベーション その10, その11)

2013年7月20日発行 p.270-273

参加メンバー: 杉浦久子, 石川咲希, 岩橋知世, 小田桐早紀,
川倉由子, 小岩井彩未, 河野華子, 羽富まどか,
三尾英里子, 山口莉歩, 山村珠紀, 渡辺知代,
木下美紀, 鈴木ますみ, 和田貴子, 野原直子,
大澤ゆりこ, 押川真弓, 飯田美帆, 瀧本風子,
牧口すみれ, 菅田真梨, 樋山友子, 後藤友香,
長久保麗子, 山田安紀, 杉浦友哉, 杉浦冬悟

協力: shibuya 1000 実行委員会, 鈴木一成, 渋谷百軒店商店街,
道玄坂商店街振興組合, 神山商店街, 東急本店通り商店街,
松濤エリアのみなさま

■「ホンノバ・プロジェクト in みんなの家・かだって」詳細

開催期間: 2013年5月1日~2日

参照: 釜石まるごと情報WEB

<http://cadatte-kamaishi.com/?p=12839>

<http://cadatte-kamaishi.com/?p=12630>

参加メンバー:

昭和女子大学: 杉浦久子, 木下美紀, 鈴木ますみ, 小岩井彩未,
山口莉歩, 渡辺知代

伊東豊雄建築設計事務所: 伊東豊雄, 古林豊彦, 高池葉子, 林盛
@リアス NPO サポートセンター: 鹿野順一, 浦島加代子,
横澤京子

■「ホンノバ・プロジェクト in 三茶子育てファミリーフェスタ」詳細

開催期間: 2013年6月16日

参照: 昭和女子大学

<http://swu.ac.jp/2013/06/10/9989/>

<http://swu.ac.jp/files/familyfesta2013.pdf>

参加メンバー: 杉浦久子, 石川咲希, 岩橋知世, 川倉由子,
三尾英里子, 渡辺知代, 石川愛恵, 杉本里恵,
飯田美帆, 野原直子, 成田麻里香, 大澤由梨子,
木村みさき, 和田貴子, 甘利知冬, 森本夏歩,

上田莉沙, 内田果那, 木下萌瑛, 黒木志保,
清水れい, 橋本桜

■「ホンノバ・プロジェクト in 秋桜祭 → 釜石」詳細

開催期間: 2013年11月9日~10日

参照: 昭和女子大学 秋桜祭

掲載: 週刊 東武よみうり新聞 2013年11月18日

参加メンバー: 杉浦久子, 木下美紀, 鈴木ますみ, 渡辺知代,
石川愛恵, 小原光, 加藤茜, 佐藤結香, 杉本里恵
協力: 高畑緑, 山田安紀, 加藤佑紀, 小岩井彩未, 飯田美帆,
瀧本風子, 成田麻里香, 野原直子, 牧口すみれ, 甘利利冬,
森本夏歩

■「アーキニアリング・デザイン展 2013」詳細

開催期間: 2013年11月15日~22日

会場: 建築会館・建築博物館ギャラリー/イベント広場

参加メンバー: 木下美紀

■「ホンノバ・プロジェクト in 恵比寿スタジオ」詳細

「ホンノバ・カタリバ」フォーラム

開催期間: 2014年2月22日

プレゼンター: 杉浦久子研究室

ゲストコメンター: 伊東豊雄, 佐々木聖, 会場の方々

参加メンバー: 杉浦久子, 木下美紀, 鈴木ますみ, 石川愛恵,
小原光, 加藤茜, 佐藤結香, 杉本里恵,
濱田さゆり, 石川咲希, 小田桐早紀, 小岩井彩未,
河野華子, 三尾英里子, 瀧本風子, 堂谷実穂,
野原直子, 和田貴子, 黒木志保

協力: 「NPO これからの建築を考える」(古川きくみ, 長塚幸助)
菊池和子(写真展示)

■「ホンノバ」展覧会詳細

開催期間: 2014年2月23日~3月1日

掲載: 新建築 2014年4月号 新建築社

参加メンバー: 杉浦久子, 木下美紀, 鈴木ますみ, 石川愛恵,
小原光, 加藤茜, 佐藤結香, 杉本里恵,
濱田さゆり, 石川咲希, 小田桐早紀, 小岩井彩未,
河野華子, 三尾英里子, 瀧本風子, 堂谷実穂,
野原直子, 和田貴子, 黒木志保

※注1

- ・『学苑』平成16年11月号 No.769 6-21 「パブリックスペース
に関するフィールドワーク報告—居場所をつくる サイト・リ
ノベーション—」(杉浦久子・木村映理子)
- ・『学苑』平成17年7月号 No.777 107-118 「パブリックスペー

スに関するフィールドワーク報告—二子玉川におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・角屋ゆず)

- 『学苑』平成19年7月号 No.801 96-105「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—新潟県十日町市におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・清水麻里)
- 『学苑』平成20年7月号 No.813 86-100「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—世田谷区北鳥山屋敷林市民緑地におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・清水麻里)
- 『学苑』平成21年7月号 No.825 55-64「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—商店街空き店舗におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・大中愛子・中村萌)
- 『学苑』平成22年7月号 No.837 59-68「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—新潟県十日町市におけるサイト・リノベーション(その2)—」(杉浦久子・鈴木さやか・吉田織音)
- 『学苑』平成22年7月号 No.837 69-75「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—渋谷周辺の地形及び地下空間におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・大中愛子・中村萌)
- 『学苑』平成23年7月号 No.849 84-100「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告—渋谷駅及び周辺地域におけるサイト・リノベーション—」(杉浦久子・鈴木さやか・吉田織音・後藤友香・長久保麗子)
- 建築デザイン発表梗概集サイト・リノベーション(その1-3)
132-137 2008年度日本建築学会大会

(すぎうら ひさこ 環境デザイン学科)

(きのした みき 生活機構研究科環境デザイン研究専攻2年)

(すずき ますみ 生活機構研究科環境デザイン研究専攻2年)

(やまぐち りほ 生活機構研究科環境デザイン研究専攻1年)

(わたなべ ともよ 生活機構研究科環境デザイン研究専攻1年)